

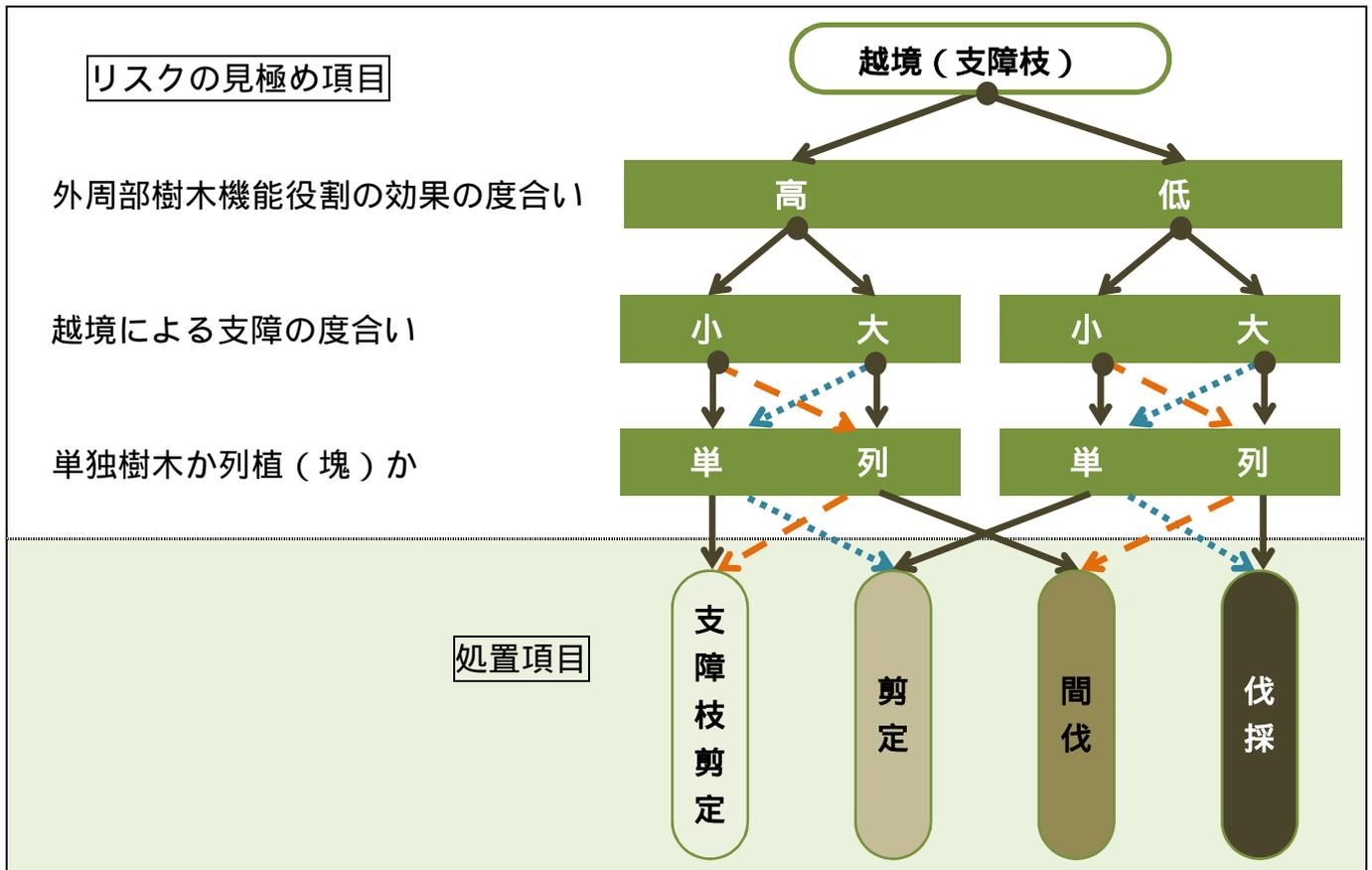
9 課題解決へ向けた具体的方策

5大課題の解決へ向けた方針（第一段階）に基づき、公園樹木のあるべき姿を踏まえ、課題解決へ向けた具体的な方策について、課題ごとに整理します。5大課題を解決していくことが、樹木の持つ機能や役割を復活させることに直結します。方策を進めるために、各課題における課題要因となるリスクを見極める視点を整理するとともに、職員が一定のレベルの判断を保てるよう、リスクの度合いによる標準的な処置内容について、処置へ至る判断の流れをフロー図にまとめます。（樹木等の持つ機能や役割についてはP-4参照）

（1）各課題におけるリスク見極め項目と処置項目

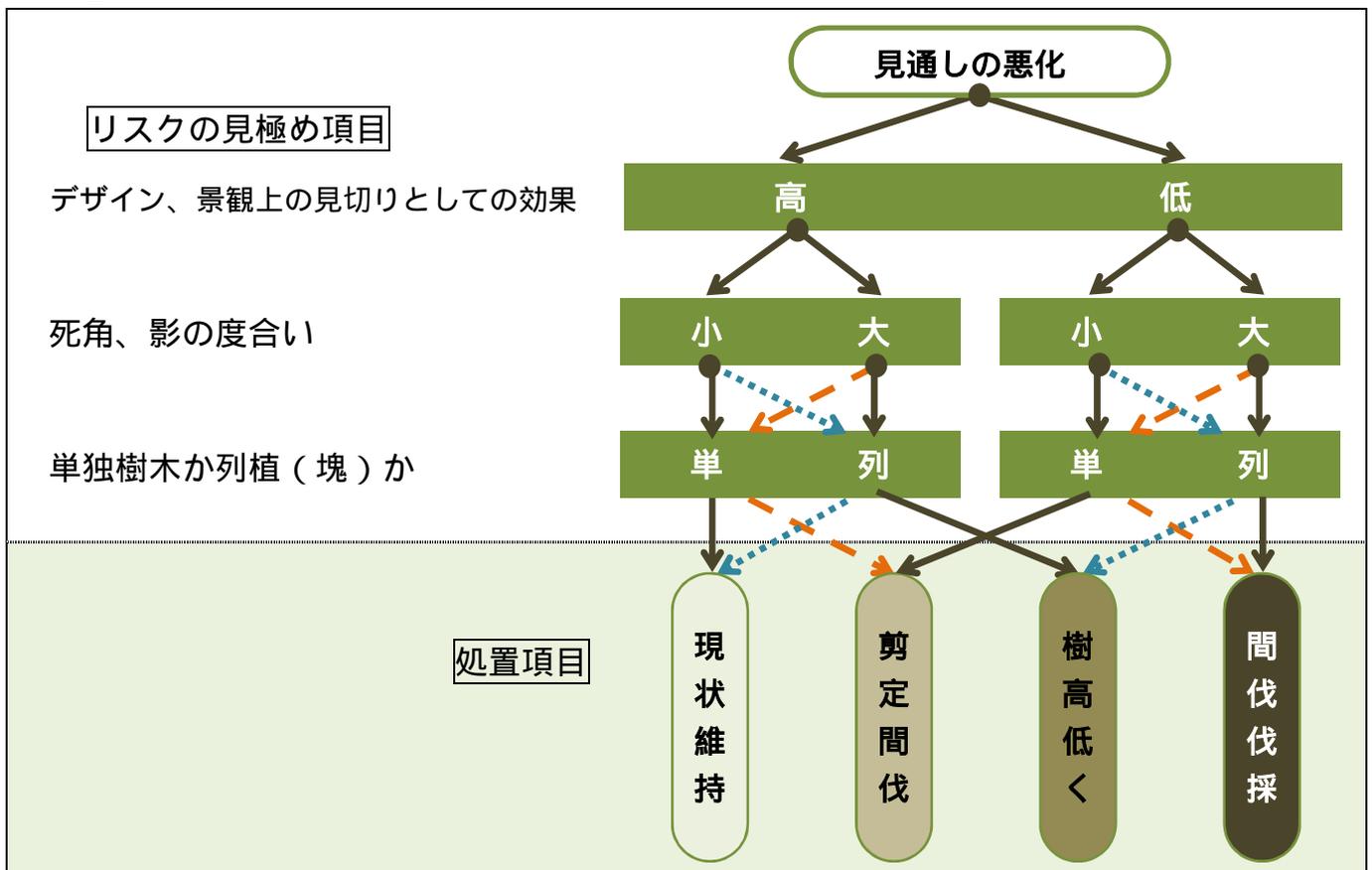
課題1 越境（支障枝）	
リスクの見極め項目	処置項目
外周部樹木機能役割の効果の度合い 越境による支障の度合い 単独樹木か列植（塊）か （一体的に生長し間引きが不可かどうか）	支障枝剪定除去 剪定 間伐 伐採
課題2 見通しの悪化	
リスクの見極め項目	処置項目
デザイン、景観上の見切りとしての効果の度合い 死角、影の度合い 単独樹木か列植（塊）か （一体的に生長し間引きが不可かどうか）	現状維持の管理 剪定、間伐（見通し確保） 樹高を低くする 間伐、伐採
課題3 過密化	
リスクの見極め項目	処置項目
樹木機能役割の効果の度合い 病虫害発生常態化（風通し、見通し悪化）している 樹木競合、弱体化傾向（樹木の競合による生長抑制）	剪定 間伐 植替え 部分伐採（一定の区画を伐採）
課題4 巨木化	
リスクの見極め項目	処置項目
シンボル性、緑陰効果の度合い 生育空間とのバランス（機能、役割発揮）がある 枯損、弱体化傾向 倒木時の周辺へのリスク度合い	延命化（支柱、施肥等措置） 剪定 植替え 伐採
課題5 老木化（弱体化）	
リスクの見極め項目	処置項目
樹木全体の枯損、弱体化傾向（倒木の可能性） 幹外周の腐朽（割れの進行、キノコの発生）の度合い 倒木時の周辺へのリスク度合い	延命化（支柱、施肥等措置） 植替え（伐採後の再生手段） 伐採（状況、時期をみて） すぐに伐採

課題 1：越境（支障枝）判断フロー図



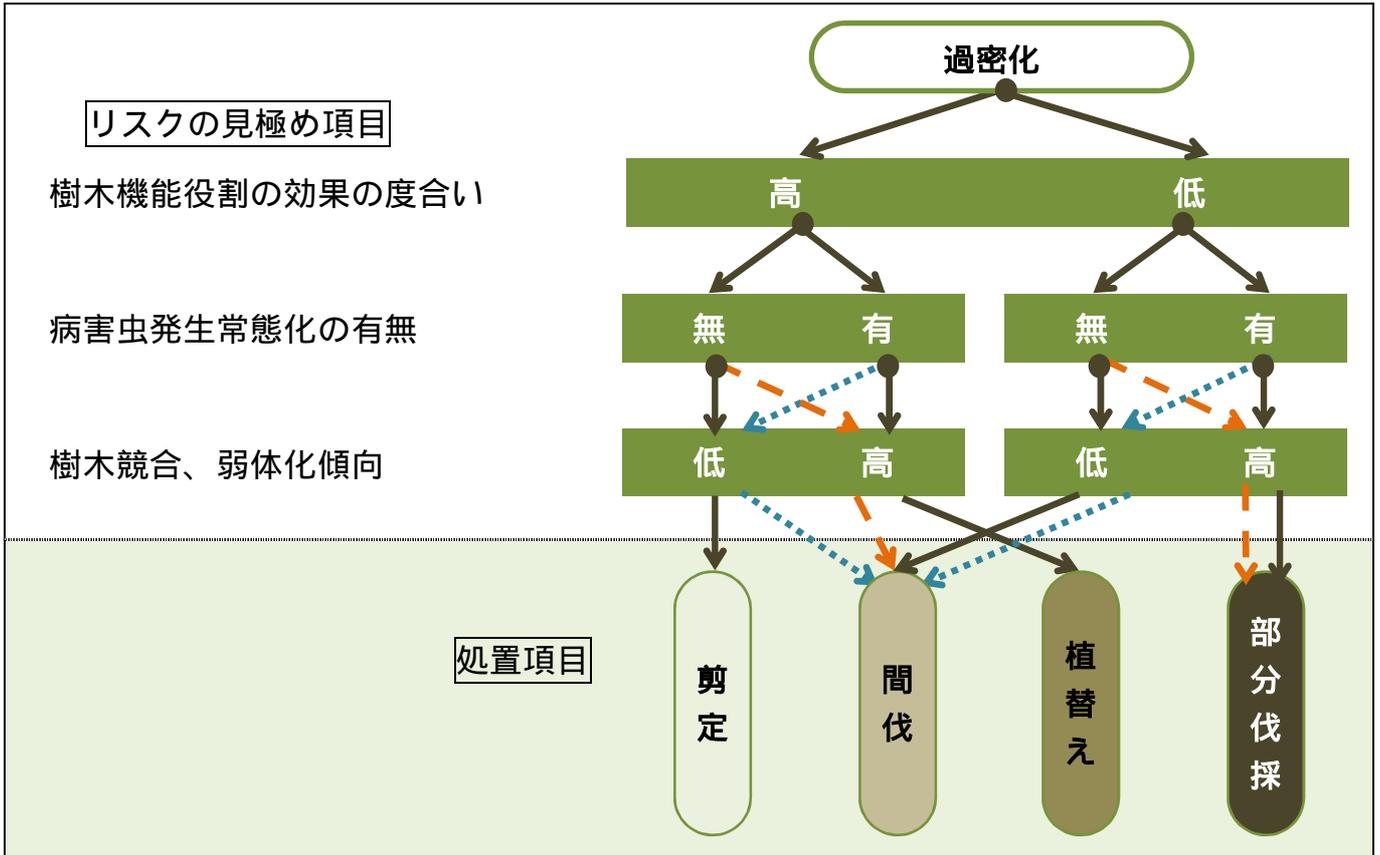
フロー図は標準的なものであり、現場状況に応じ判断する必要がある

課題 2：見通しの悪化 判断フロー図



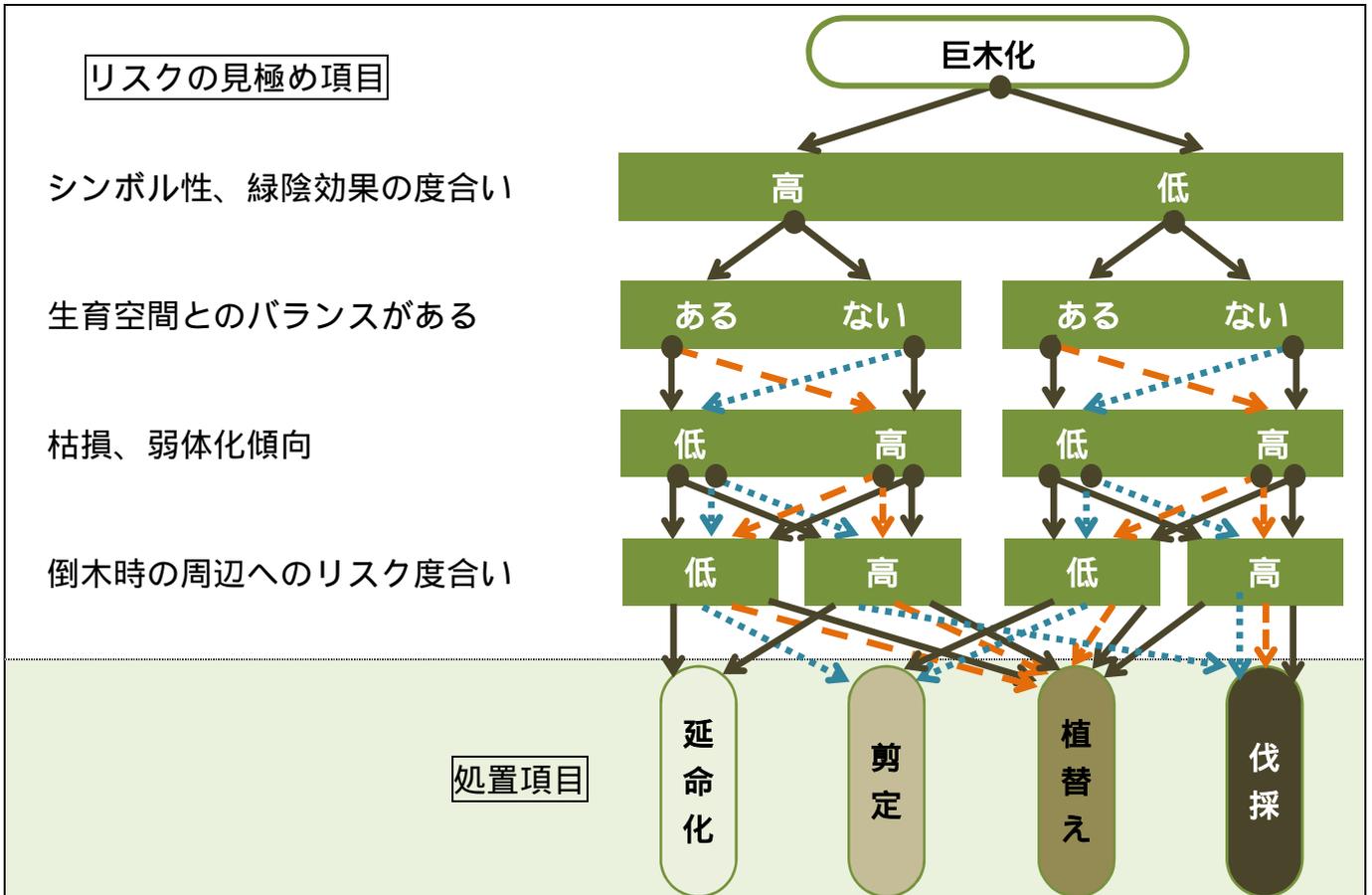
フロー図は標準的なものであり、現場状況に応じ判断する必要がある

課題 3 : 過密化 判断フロー図



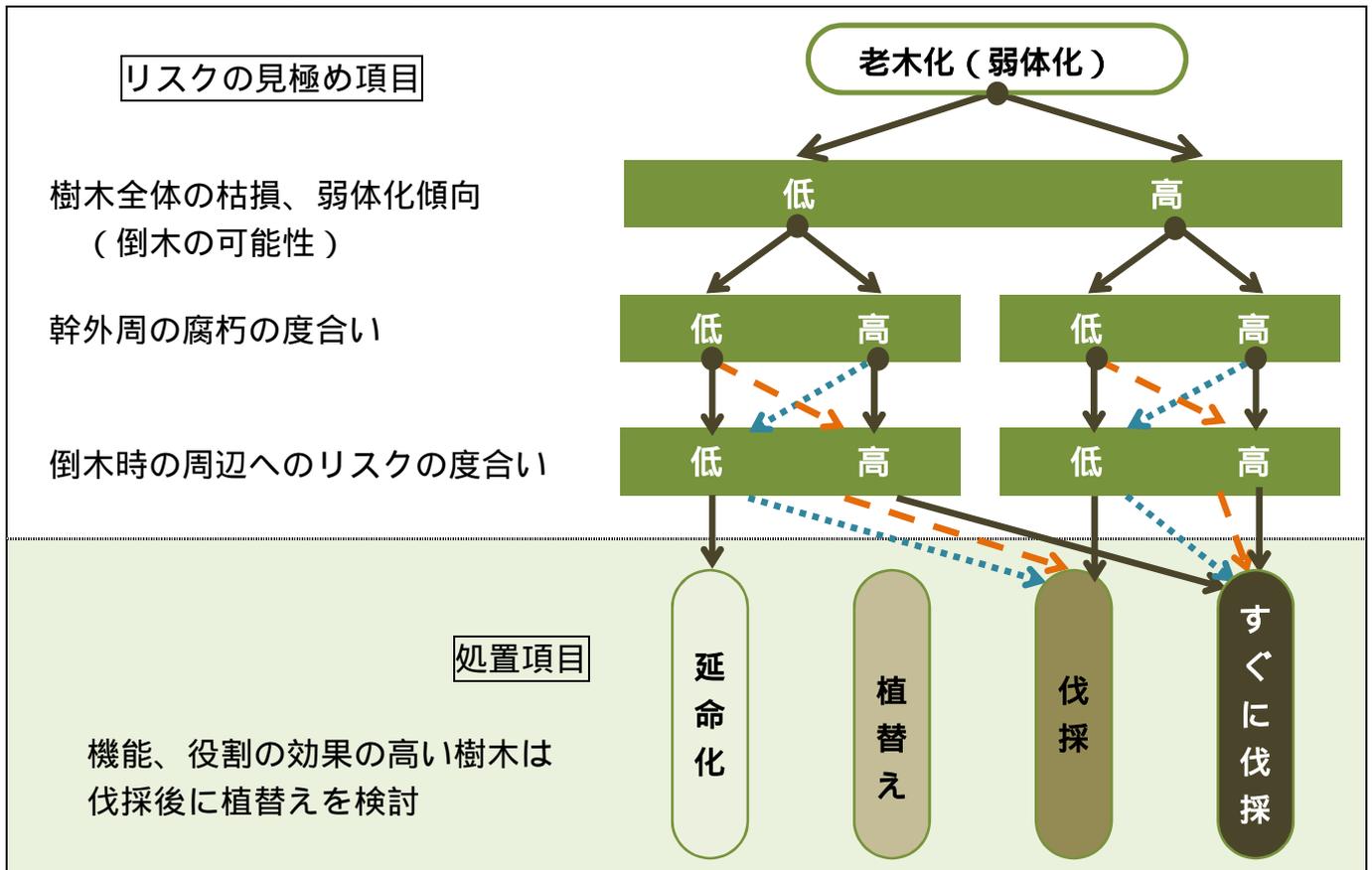
フロー図は標準的なものであり、現場状況に応じ判断する必要がある

課題 4 : 巨木化 判断フロー図



フロー図は標準的なものであり、現場状況に応じ判断する必要がある

課題5：老木化（弱体化） 判断フロー図



フロー図は標準的なものであり、現場状況に応じ判断する必要がある

(2) 処置項目の判断事例

具体的方策について、5つの課題ごとに前述の判断フロー図に基づいた処置へ至る判断事例を示します。事例では、あるべき姿を捉えるときの視点、及び判断フロー図での見極め項目の度合いに応じた判断の流れを示しています。

また、各処置項目を実施する際の留意点については、後述する(3)において示します。

なお、ここで示す判断事例は標準的な一つのパターンであり、現場状況等に応じ、見極めの判断にかかる項目や度合い、また処置項目について、定めていく必要があります。



課題 2 : 見通し悪化

事例 2 - 1

事例 2 - 2

視点 安全・安心・快適、外周部

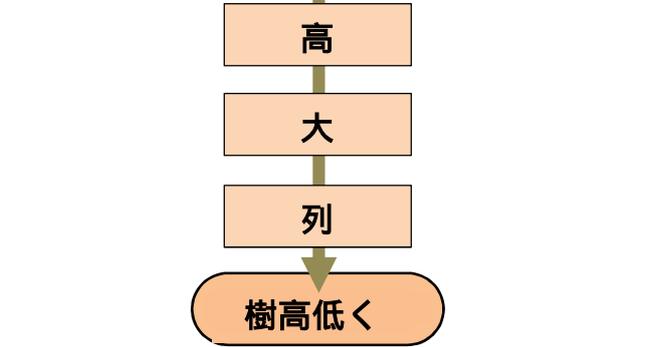
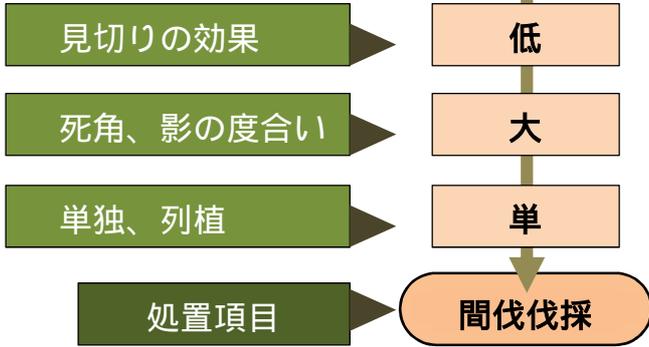


旭公園

視点 安全・安心・快適、外周部



大沼松音公園



課題 3 : 過密化

事例 3 - 1

事例 3 - 2

視点 適正な量、生育空間

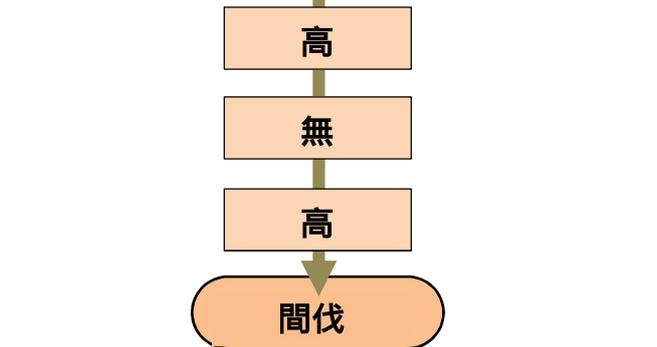
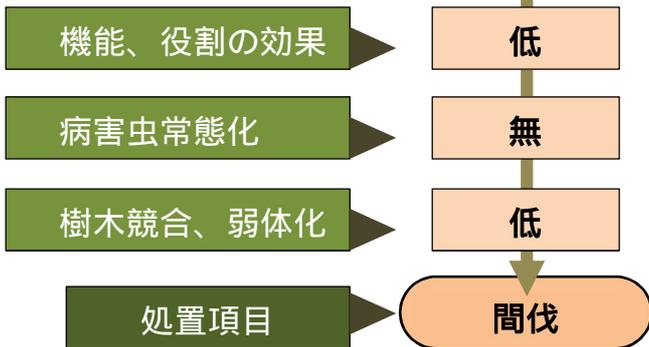


由野台第1公園

視点 適正な量、生育空間、安全・安心



長久保第1公園



課題 4 : 巨木化

事例 4 - 1

事例 4 - 2

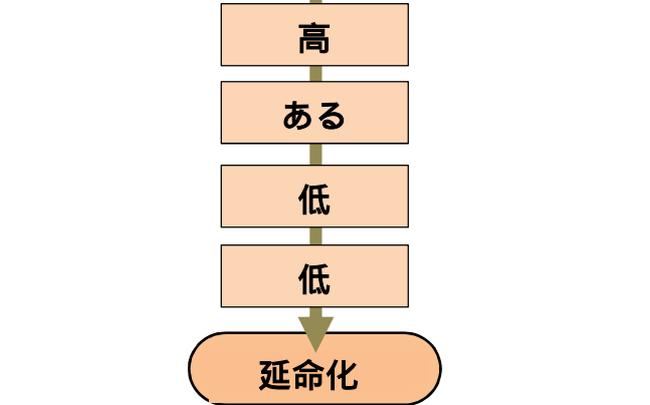
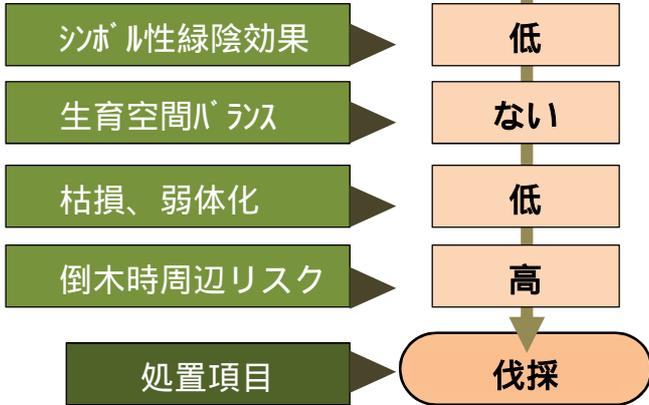
視点 生育空間、安全・安心・快適



視点 適正な配置、生育空間



西橋本ほほえみ公園



課題 5 : 老木化 (弱体化)

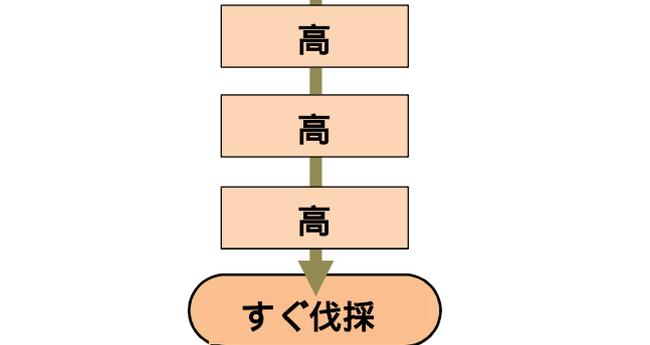
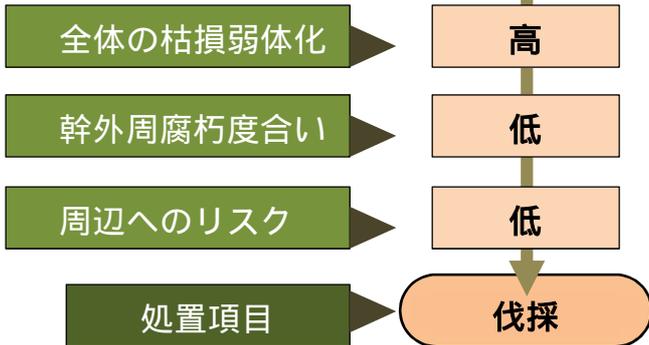
事例 5 - 1

事例 5 - 2

視点 安全・安心・快適



視点 安全・安心・快適



(3) 処置項目の実施にあたっての留意点

剪定	
 <p>片枝剪定の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支障度合いが、継続的な剪定でコントロールできるのかの判断 ・支障枝剪定は、倒木リスクを高めるような片枝剪定は避ける ・幹や枝の途中で切るぶつ切りは、不定芽発生や弱体化を招くため避ける ・巨木化する樹種での対処的剪定はかえって生長を早める ・低木は利用者に近い配植が多く、刈込み時の枝の先端に注意

伐採		
<ul style="list-style-type: none"> ・伐採時はなるべく幹部分は残さず、地際近くで伐採する ・幹の開口空洞や腐朽度合いによる伐採時の留意点を、以下のとおり整理する 		
		
幹周の 2/3 以上 伐採	幹周の 1/3 程度 要注意	幹周の 1/3 未満 観察

危険樹木		
<ul style="list-style-type: none"> ・要注意対象となる樹木の見極め項目を以下のとおり整理する（後述の日常点検項目参照） 		
		
幹に腐朽がある	葉が茶色、樹皮の剥げ	広範な枯れ枝、落枝
		
幹を押すとグラグラする	幹や地際にキノコが発生	広範に枝葉密度の薄い箇所